

服飾美術学科ゼミナールⅠ授業から

【服飾造形系のSDGsの考え方と
取り組み・実践小作品】

2017～2023



服飾美術学科

倉 みゆき

市川 真妃



SDGsの学びと目的

- 現在、この単語：**SDGs**（持続可能な開発目標）については日常語になって多くの人が承知してきている
- そこで、服飾を学ぶ者にとって、何を具体的に目標に向かい、個人個人及び、グループ、分野で取り組むことが出来るか、考え、実践計画を立てる。=>各自1つ課題を取り上げ、取り組みをプレゼンテーション形式で発表
- また、何か一つ【Re,】(Recycle,Reduce,Remake,Reform)の作品を作る、そしてREUSE出来るようにする

SDG s とは

- SDG s (Sustainable Development Goals) はあらゆる貧困を終わらせ、地球環境を守り、すべての人々が平和と豊かさを享受できる世界を実現すること。具体的に【17の目標と169のターゲット】を掲げ、世界の国・各企業・個人が取り組み、2030年12月31日(達成期限)に向けて努力しなくてはならない
—2015年9月国連サミットにて採択—

服飾造形系（衣の分野）で考える,考えられる, 実行すべき課題

- 目標5：ジェンダー平等の促進
 - 目標6：水と衛生の確保
 - 目標8：働きがいのある経済の促進
 - 目標12：持続可能な生産と消費の確保
 - 目標13：気候変動への対処
 - 目標14：海洋の保全
- これらの問題が上がってきた

衣の分野での【目標】と具体的内容

- 材料である素材(繊維) から衣服を作り、消費者に届くには、主に、生産、染色、製造、流通・輸送、の過程があり、何れの段階でも環境と密接な関係があり負荷がかかっている。
 - 生産：栽培/土壌の確保、水の確保、害虫対策など
 - 染色：染料/着色、定着、水洗い、染液及び洗浄の排水
 - 製造：機械系(紡績機、織機、編機、延反機、裁断機、縫製機等)
 - 流通・輸送：運搬、管理、配送

これらの段階で如何に負荷と思われる事象の軽減を図る

個々人の努力

- 入手→使用→廃棄
一方通行の流れを還流出来るものはする
- REUSEの為に
Recycle,Reduce,Remake,Reformなど
実践する



デニムの耳の活用



デニム生地生産時に出来る両端(=耳)を本来廃棄する部分であるが、それをリユース可能であることで広島メーカーがテープ状に保存している

(左画面：幅2cm片側は毛羽立っている)
それ入手し、ゼミ生のアイデアで作品化(右画面) 大量であったため、多年度で作品作り

洋服、帽子、バック、ペットボトルケース、アクセサリー、スリッパなど



洋服系作品





帽子いろいろ

- ・飾りのコサージュも
- ・キャップは毛羽なしで



bags



テープの形状から、毛羽を
の効果と毛羽なし効果で編
んで柄を作る、また並べて
縫い上げストライプの布化
プラスポイントカラーの布
を足して変化を！

雑貨に！アクセサリー他



デニムの耳(すべて消化) 以降の取り組み

- ・ 自分等の服からのリメイクで子供服に
- ・ きれいな部分を使ってエプロンに
- ・ お気に入りのTシャツをペットの服に
- ・ ジージャンの袖口をスマホケースに等





あの安倍のマスクを布巾に！

地域包括センター(北区) に持ち込まれた大量のマスクを

- ・シルバー人材の方々がほどこ
- ・倉のゼミナールIで布巾化
- ・十条高齢者あんしんセンターが配布

➔1000枚以上のリメイク協力

